

令和6年度第2回とやまスタートアップ戦略会議 議事要旨

【ヘルスケアベンチャーの発掘・誘致について】

- ・富山県は医薬品製造に関して歴史があるので、その点をもっと上手くうたってバイオエコノミーの立県を進めていく必要がある。そのためにも見せ方は重要であり、古い事業ではなくて昔から延々と続くすばらしい事業だということを訴求していくべき。
- ・ヘルスケアの概念とウェルビーイングは繋がっているところがあり、またヘルスケアというのは、様々な人がどうやってよく生きるのか、楽しく生きるのか、QOLに関わっている非常に大きなテーマでもあるので、重要な部分にフォーカスが当たってきたのではないかなと思う。
- ・ヘルスケアベンチャーへの支援について、医薬品はなかなかハードルが高いので、ヘルスケア産業いわゆるトクホ商品等も含めた形に落としてくると、富山県の企業はかなり関連がある。とりあえず現状では健康食品等も含めた形で少しハードルを下げて、将来的には富山県の薬業会にとって利益が上がるようなことも取り上げていただきたい。
- ・ヘルスケアベンチャーは資金面だけではなく、販路やデータベース、マーケティングが大変重要であるので、ベンチャーキャピタルだけではなく、ヘルスケア分野への投資や販路を持っている事業会社を巻き込むべき。

【スタートアップ支援について】

- ・シーズ案件の発掘というのが一番大事なことだと思っている。その中でイントレプレナーいわゆる企業内起業は、より短期的に案件の発掘に繋がると考えられるのでどの会社も取り組む必要がある。
- ・最近だと跡継ぎベンチャーというのも注目されているので、もっと跡継ぎベンチャーという言葉を出して、第2創業とかまさに跡継ぎの方にスタートアップ的な手法でアプローチすることが富山県のポテンシャルを考えた場合に有効ではないか。
- ・新田知事がスタートアップ・創業支援に力を入れて支援してきたところとして、T-StartupやSCOP TOYAMAの整備であったり、また、1つの成果として大学発ベンチャーの伸び率日本一もあり、基礎づくりという面で見れば十分な状況だったのかなというふうに思う。
- ・大学の基礎的な科学技術をどうやって世の中に出すか。そのときに経済の力をどうやって使っていくかということが重要である。富山の産官学の実践は素晴らしいので、大学として大学発ベンチャー創出に今後も力を入れたい。